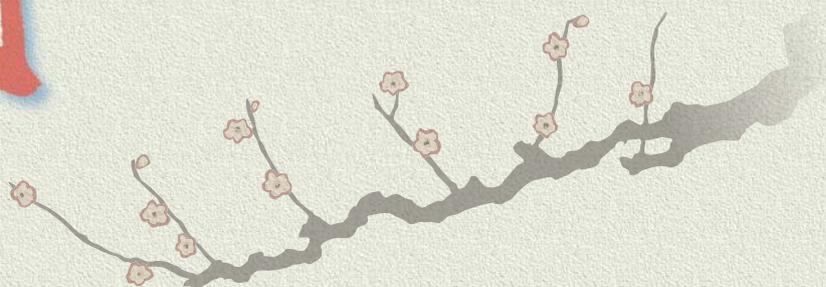


学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ

# 真剣味



中京大学

広報 185号

2015年11月16日発行



## Campus Shot | 豊田図書館 ラーニング・スクエア

学生たちのグループ学習を促す能動的学修支援施設として、9月21日にオープンした。空間を区切って利用でき、パソコン20台とプロジェクターを貸し出し用としている。名古屋図書館では2013年度に開設され、ゼミナールの打ち合わせやパワーポイントの共同制作などに活用されている。

## 主な内容

- ②-③ 梅村理事長 就任2年の抱負
- ④-⑤ 就職活動報告
- ⑥-⑦ 公務員試験速報
- ⑧ 教育構想会議答申／交換留学生の受け入れ最多34人
- ⑨ 工学部生が103社に研究発表
- ⑩ 全国同窓会／中京人往来「東海テレビアナウンサー・上山真未さん」
- ⑪ オープンキャンパス初の1万人超え
- ⑫ ゼミにフォーカス「アート」
- ⑬ ラジオ公開録音／中京大学祭
- ⑭ スポーツ結果
- ⑯-⑰ 7つの研究力「経済研究所」
- ⑱ 内閣府の革新的研究開発推進プログラム「ImPACT」に参画

# 名古屋地区での総合学園化めざす

## 梅村理事長就任2年で抱負

梅村清英・梅村学園理事長は、第4代理事長就任からこの10月で3年目に入りました。梅村理事長は広報部のインタビュアーに「名古屋地区で総合学園化を目指す考えを明らかにしたほか、中京大学はグローバル(G)型を志向するなど改革を推進する決意を示しました。教育界を取り巻く環境が激しく変化する中で、梅村学園、中京大学の改革の方向を語っていただきました。」



## アジアと交流拡大 今年は土台づくり

——海外との交流はどのようなお考えですか。

これまでのアメリカ中心は変わりませんが、この10年を見ると、日本の経済構造はアジアの元気のいい途上国に支えられてきました。中京大生が伸び盛りの国を見る、そうした国に足を踏み入れる、あるいはそれらの国々から学生を迎え入れることが重要です。

——今年は理事長自ら海外との交流を広げています。

まさに今年はアジアの国々との交流を定着させる状況をつくる準備をしているところです。韓国の地山学園と包括提携し、駐名古屋総領事館とも提携しました。台湾の国立嘉義大学とは84年前の旧嘉義農林学校時代に甲子園でともに初出場決勝決した縁があり、映画「KANON」の舞台でもあります。当時の中京商業は現在の中京大附属中京高校、嘉義大とも早い段階で提携し、野球の親善試合も実現したいと考えています。

を組み込みたいと考えています。政府が掲げる方針にはしっかりと対応できる学園を目指します。

——学園の将来像に関わってどうですか。

今は名古屋地区に高校、大学の二つですが、目指すのはこの地区での総合学園化です。幼稚園から小中高校、大学までの一貫教育を実現させたいと考えています。こうした長期的展望に鑑みても国際バカロレアは重要な要素です。

生徒が海外に目を向けるのは早い方がいいわけです。国際バカロレアの取り組みで、高校生の早い時期から「気づき」が芽生えます。そうした経験を積んだ生徒が大学に入れば刺激にもなります。

〈注1〉

21世紀にふさわしい教育のあり方を議論する有識者会議。改革の提言は8次に及ぶ。中央教育審議会(中教審)は提言に、専門的な検討を加え、制度設計している。

〈注2〉

国際バカロレア機構(本部スイス)が提供。年齢に応じた教育プログラムが4種類ある。16―19歳向けは、国際的に通用する大学入学資格の取得が可能。

## グローバル人材の育成 まず自国の歴史文化を

——政府の教育再生実行会議

注1は第3次提言「大学教育の在り方」でグローバル人材の育成を掲げています。

グローバル化に対応する人材づくりで重要なのは、まず在学生が自分の国の歴史、文化を理解する、そういう教養を身に

付けることです。各学部の教育内容にそれらを盛り込み、質の高い教育を提供していきま

す。自国の歴史、文化を知らないと他国の歴史文化を理解できません。語学力の向上以前に「知識」がなければコミュニケーションはとれません。外国の良さも自国と比べて初めてわかります。その上で語学力がつけば理解を深められると思います。

## 国際バカロレア認定校 附属高校で対応したい

——教育再生実行会議の第7次

提言では、国際的な教育プログラム「国際バカロレアの推進」注2を掲げています。

教育再生実行会議は国内のバカロレア認定校を、現在のの

26校から2018年までに200校、約8倍に増やす計画です。この流れに乗らないと、

中京大学、附属中京高校ともに大きく遅れをとります。附属高校は2023年の創立百周年の前にバカロレア認定校にしたいと思います。現在、附属高校と大学が一体で中期計画を策定しており、その方針

# 教職員、高い志持とう

——高大接続改革についてはいかがですか。

高大接続改革は単なる入試改革と思われがちですが、教育界全体の改革です。想像を超える大きな改革に、柔軟に対応でき

る組織になることが重要です。私共も学園として大きな岐路に立っています。名実ともに総合学園としてやっていくには今が正念場です。従来の慣例や固定観念にとらわれずに改革を進めることが大事です。時

には思い切った決断も必要でしょう。それには私も含め教職員の意識改革が必要です。大事なのは我々自身が高い志を持つこと。それでこそ、より志の高い学生が学園に入ってくると思います。

## 財政基盤の再構築

### 諸施策推進の前提

——財政運営のお考えは。

学園、大学が重大な岐路に立っていること、名古屋地区での総合学園化を考えると、財政基盤の再構築が先決です。これなくしては全ての施策が実現不可能です。ここでもう一回、財政基盤を作っていきます。

再構築には、抜本的に収入増、支出減を計らなければなりません。多くの困難な課題があります。帰属収入の改善を行う学費増に頼らず、地道な努力が必要です。様々な外部補助金をとれる状態にし、経常費補助金や教員の研究費補助金などの外部資金獲得がポイントです。支出減は、予算の組み方の

見直しだけでも違ってきます。

加えて、学園の事業会社を作り、一定の収益を上げて在学生に還元できる仕組みを作ります。多くの事例を参考に早期に

——寄付についてはいかがですか。

実現します。今作る意義はそこにあります。収益を上げることが可能です。

欧米では寄付文化が進み、母校への帰属意識が強く、卒業生

の寄付で大学が成り立っています。特にアメリカは典型的で、収入に占める寄付金の割合が大きいようです。

中京大学が社会で活躍されている卒業生の方々から「母校のために」というご厚志をいただ

## 中京大学はG型を志向 教職協働の協力体制を

——国立大学改革の私学への影響はどう見えていますか。

かつてないスピードで国立大学の改革が進んでいます。国の方針に基づく改革が進み、高等教育機関全てに及んでいます。私立大学にも影響は及ぶと考え、厳しい視点で改革に取り組む必要があります。それには、教職員が意識改革できるかどうかが鍵です。

グローバル(G)型、ローカル(L)型の議論、専門学校も大学に参入する話もあります。専門学校は財政基盤が安定したところが多く、私大への影響は大きいでしょう。

G型、L型の議論で言えば、中京大学は迷うことなくG型を目指すべきです。それ以外に明るい未来はありません。

けるようにしたいです。それは、「学生時代を過ごしてよかった」と評価される大学になることです。同窓生、在学生のご家族にも喜んでいただけるよう、更に改革を推進していきます。

そのための改革を全うすることが私に課せられた使命です。岐路にいるこ

とはチャンスでもあります。チャンスでもありません。チャンスは逃さないための協力体制を教職協働で作ってきたいと思っています。

改善すべき課題は、中京大学長期計画「NEXT10」の議論を経て明確になりました。「伸びしろ」は十分あります。ただし、その時代に合うように改革の手を打つことが重要です。附属高校の中期計画策定で、大学、高校が一体になって取り組んでいきます。高い壁であつても乗り越えていきたい。

学生に対して、教員の高い研究力を裏付けとした質の高い教育の提供が使命だと思います。そのことがNEXT10で掲げた「自ら考え行動するしなやかな知識人」、自立した社会人を送り出すことにつながります。



## 他社内定後にチャレンジ



飛田明俊さん  
情報理工学部4年  
(愛知県立小坂井高校)

〈内定先〉  
ヤマザキマザック株式会社

就職活動を開始したのは少し遅くて、今年の5月過ぎてからでした。それまでは、ロボカップに参加していました。ロボカップには2年連続で優勝、準優勝しています。授業後も毎日遅くまで残って作業をし、授業のない日も週3日は大学にきていました。初期は自動車業界を受けていましたが、最終面接まで行くも

の落ちてしまい、落ち込むこともありました。そんな時も研究室のメンバーがフォローしてくれ、勇気づけられました。

もともとプログラミングが好きなこともあり、自動車業界だけでなくIT業界にも視野を広げました。また1社当たりの企業研究の時間を長くとるなど工夫をすることにより、内々定がとれるようになりました。

工作機械業界のことは合同説明会で知りました。他社の内定をもらったうえで、最後にチャレンジしたところ、内定を得ることができました。

他社の内定後もあきらめずに継続したこと、就職活動の中であがり症が克服できたことが要因だったと思います。

工学部の後輩には、卒業研究があるので早めに就職活動を終わらせるよう、準備を早くからすることを勧めます。

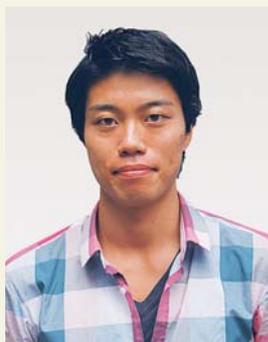
## 動報告

今年の就職活動は、スケジュールが例年と大きく変わり、学生も支援するキャリアアセンターの職員もとまどいがあったようだ。

大手企業に内定した学生3人に、実際の取組みと後輩へのアドバイス聞いた。また、キャリアアセンターの中里部長に全般的な傾向を分析してもらった。

## 内定者の声

## 中だるみせず長期戦乗り切る



柴田 滉祐さん  
経済学部4年(名古屋高校)

〈内定先〉  
あいおいニッセイ  
同和損害保険株式会社

私が就職活動を開始したのは3年生の11月、キャリアアセンター主催のガイダンスに参加したがきっかけでした。学内のセミナーには積極的に出席し、自己PRや自己分析を重ねました。

金融業界を志望していたのですが、地方銀行や証券会社などから複数内定をいただくことができました。就職活動は長期にわたるので、中だるみがないよう意識を保つのに苦労しました。

いろいろな方の支援があったことが助けになりました。

今の3年生へのアドバイスとしては、就職活動のスケジュールを把握したうえで準備していくことが大事だと思います。

また説明会などにも「この説明会ではこれを見よう」など目的を持って臨み、漫然と参加しないことが重要です。

最終的に就職先を決めるのは自分自身です。周りの意見を聞くことも大事ですが、そのことを忘れないように活動してください。

## 先生や友人からアドバイス



小川 向日葵さん  
国際英語学部4年  
(中京大附属中京高校)

〈内定先〉  
三菱商事株式会社

内定は三菱商事以外にもメーカーから何社かいただきました。ほかの商社も説明会に参加してみました。一番自分にくりきたのが同社でした。

メーカーからの内定を先にいただいていたこともあり、チャレンジのつもりで受けました。

就職活動は例年と比べると長いと言われていたようですが、私としては楽しむことができました。ただ、エントリーシートが通らない、周りの内定が開始める、など焦る場面もありました。

そんな時は4年間学部で参加していた「先輩トークプロジェクト」(新1年生に英語でプレゼンテーションをするなどの活動)で、先輩としての意識を高め、先生や友人からアドバイスをもらいました。また親にも応援してもらった。特に父親から「人としてどうすればいいのかを学んだ気がします。

後輩へのアドバイスとしては、企業の説明会へ行っても、人事担当者だけでなくほかの社員さんとも話すこと、幅広く社会人と接することが大事だと思います。

## 二極化進む就職活動 学内イベントには必ず参加を

キャリアセンター 中里 和彦 部長

今年度(2016年3月卒業予定)の就職活動の特徴は、「二極化」と「長期化」といえます。

現時点(10月下旬)で、複数内定(重複内定)を獲得する学生と、なかなか内定をとれない学生とに極端に二分化された年です。

また、企業は採用面接を「指針」とおりに8月1日から開始した場合と、例年と同様に早期から面接を開始した場合がありました。この影響で、就職活動がうまくできなかった学生は昨年からの就職活動の準備を始めて1年が経過しようとしています。

実際の就職活動には4月以降半年以上を費やしており、昨年度と比較して長期化しています。

ただ、個別に企業の採用活動を見ると、エントリーシート提出やウェブテスト、また1次面接開始から2次、3次面接までの時間が例年以上に短く、その意味では短期決戦だったともいえます。いずれにしても、早くから準備ができていた学生のほうがうまく対応でき、希望通りの進路決定をしたと分析



しています。

内定を複数取れた、もしくは希望の進路に進めた学生に共通して見られた特徴は、早い段階から就職活動に備え、キャリアセンターを上手に利用していたことです。例えば、学内の業界研究セミナーでは多く業界の説明会に参加し、インターンシップ、エントリーシート作成などそれぞれの時期の課題をキャリアセンターとともに解決していった学生が、希望の進路へ進めている、と感じています。

現在、キャリアセンターとしては、就職活動を継続している学生のために、「Reスタートガイダンス」や「求人紹介セミナー」等を実施し、個別サポートで支

援を継続しています。

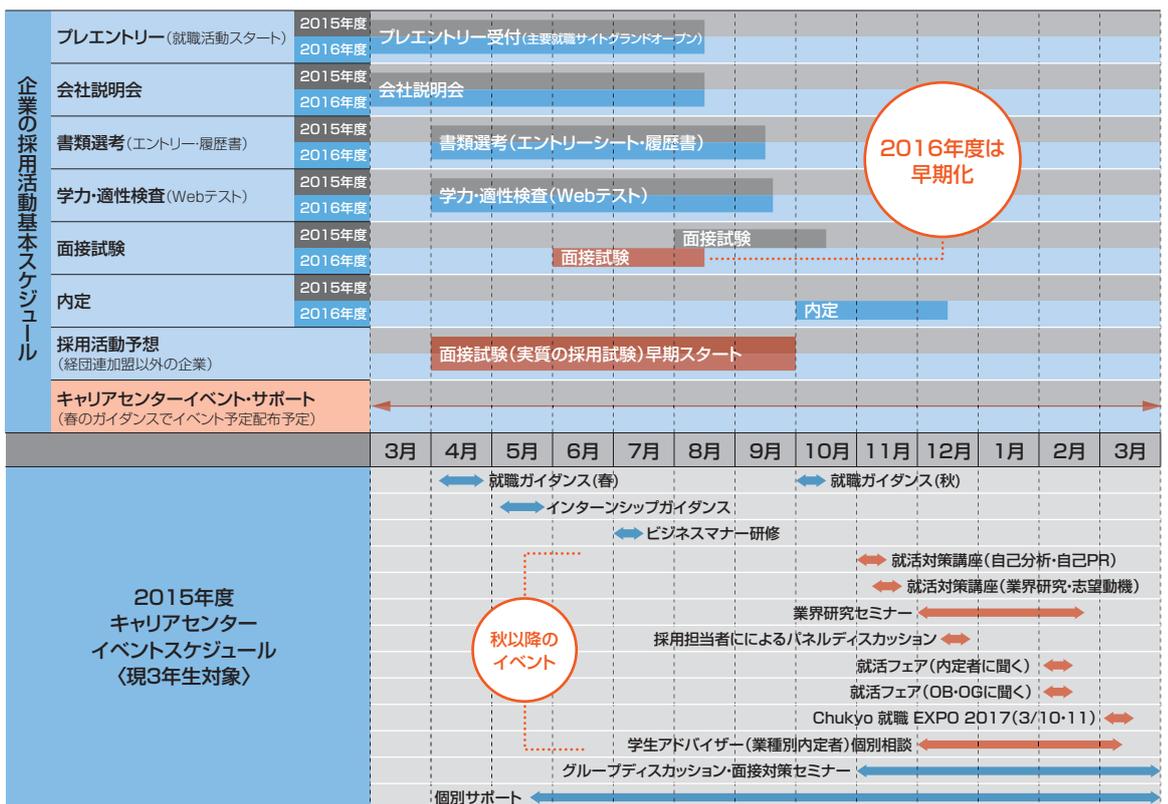
また、大学と関係の深い多数の企業から追加求人をお願いしています。大学へ直接来る求人は、今までの就職実績がある企業が多く、本学の学生をぜひ採用したいというものが大半です。まだ進路を決めていない方は、すぐに相談に来てください。

公務員・教員志望で進路変更を考えている方も同様です。キャリアセンターを活用することが就職をきめる早道です。

3年生のみなさんには、これから実施される就職対策「自己分析・自己PR」「業界研究・志望動機」「業界研究セミナー」など(ALBOで案内)キャリアセンターのイベントには必ず出席してください。イベントごとに目的があり、必要なことを段階を踏んで実施しているので就職活動の準備には非常に役立ちます。また、インターンシップに積極的に参加することも就職活動に役立ちます。

### 2016年度 企業採用基本スケジュール概要とキャリアセンターサポート

\*2015年10月28日現在、2016年スケジュールは決定ではありません。



工学部学生が、多く志望する製造業等は海外進出している企業が多く、専門分野に加えて語学力も養ってほしいと思います。

キャリアセンターは低年次からの相談もできます。進路についての不安、悩みなど気軽に相談にきてください。

資格センター

## 国家公務員、 地方上級合格者は前年並み 早めの準備が大事

キャリアセンター 資格担当 柴田 眞一 係長



国家公務員(総合職・一般職)および都道府県、政令指定都市の職員といった地方上級の合格者数は、ほぼ前年並みの状況となっています。

昨年との大きな違いは、民間の就職活動の後ろ倒しの影響を受け、公務員試験も約1カ月遅れでのスタートとなった一方、最終合格発表が、昨年と同時期の8月下旬と試験期間が圧縮されたことです。

後ろ倒しの影響により国家総合職の2次試験と地方上級の1次試験、国税専門官の1次試験と東京都特別区の1次試験が重なるなど選択肢を狭められてしまいました。そのため資格センターでは、学生の適性や得意科目などを考慮し、きめ細かなアドバイスを心掛けました。

資格センター主催の講座全般についてですが、宅地建物取

引士講座を基礎とすることは例年と変わりありません。今年も積極的に受講する学生が多く、昨年の341名から400名と大幅に増えており、これらの学生が公務員やファイナンシャルプランナー技能士などを目指して次の講座へと挑んでいます。

今後は2年生を対象とした公務員講座の開講に向け、説明会を開催します。また、3年生を対象として公務員試験に合格した4年生が勉強方法や面接対策についての情報を伝える内定者報告会や相談会を年内に開催します。

そして、4年生の公務員志望の未内定者についても市町村などの追加募集情報を提供しつつ、キャリアセンターと連携し個別指導していく予定です。最後に公務員試験、特に国家総合職などの難関公務員の試験対策は早い時期からの準備が大事です。1年生の3月から開講する公務員準備講座を受けるなど、早い段階から対策を取ってほしいと思います。

## 超朝型でメリハリ



山川 貴都さん

経済学部4年(愛知県立刈谷北高校)

〈合格〉 ※太字は進路先

国家総合職(法務省民事局)  
地方上級(東京都)、国家一般職

法務省民事局は、登記、戸籍、国籍に関する事務など、当たり前の生活を支える、いわば国民生活の基盤を作る仕事を行って

います。自分の仕事を通してすべての国民に貢献できることに魅力を感じ、法務省民事局を志望しました。

試験に挑戦するにあたって最も工夫したのは、時間の使い方です。勉強を効率よく進めていく上で最重要と考え、「3時45分チャレンジ」と銘打って、時間を有効に利用するようにしました。朝3時45分に起床し、朝4時から勉強を始め、6時半までには大学の自習室で勉強を開始するという、超朝方のリズムです。その日のノルマが午前中にほぼ終わり、午後には時間の余裕ができました。

夕方以降の自由に使える時間は、趣味のマラソン練習を行っていました。勉強の気分転換に

役立ち、頭と身体をバランスよく使うことで、精神的にもストレスなく勉強を進めることができました。官庁訪問の際もランニングシューズを持って行き、空いた時間に走ることでリラックスして臨めました。

公務員試験の勉強を進めていく中で大きな力になったのは、両親のサポートです。大学の近くで下宿を許してくれたことでマラソンと勉強を両立でき、最終的な進路決定も「絶対にやっつけていける、頑張ってこい」と背中を押してくれたことが決め手になりました。勉強は一人で行うものですが、両親や友人をはじめ沢山の人の支えがありました。感謝の気持ちを忘れず勉強に取り組むことも大切です。

## 地域活性化に取り組みたい

大森 美奈さん

法学部4年(愛知県立天白高校)

〈合格〉 ※太字は進路先

地方上級(愛知県庁)  
国家一般職、国税専門官

私は、大学1年生からスイミングスクールで子どもに水泳を教えるアルバイトをしています。子どもたちの楽しそうな笑顔にやりがいを感じています。保護者の方とも関わる中で、生まれ育った

愛知県を、地域の人にとつてより住みやすい街にしたいと思い、地域活性化のために必要な政策について考えるようになりました。

1年次に宅建の試験に合格し、目標達成の喜びを味わいました。公務員講座でも同じように、学んだことをすぐに復習して、地道にコツコツ、必ず毎日勉強しました。結果が出なくて泣いたこともたくさんあります。でも、全く勉強しなかった日はありません。経済科目が苦手だった私は、

## 結果速報

# 地方上級試験

## 告 始まる

## 昨年と比較した公務員試験の期間

昨年

	4月	5月	6月	7月	8月
国家総合職	一次	二次	結果		
国家一般職			一次	二次	結果
国税専門官			一次	二次	結果
裁判所職員			一次	二次	結果
地方上級 (東京都特別区)	一次	二次			結果
地方上級 (県庁・政令指定都市)			一次	二次	結果

← 4月下旬～8月下旬 →

今年

	4月	5月	6月	7月	8月
国家総合職			一次	二次	結果
国家一般職			一次	二次	結果
国税専門官			一次	二次	結果
裁判所職員			一次	二次	結果
地方上級 (東京都特別区)			一次	二次	結果
地方上級 (県庁・政令指定都市)			一次	二次	結果

← 5月下旬～8月末 →

# 2015年度 主要公務 国家公務員・ 合格者報



神田 成洋さん  
法学部4年(東邦高校)

〈合格〉 ※太字は進路先

**国税専門官**

**国家総合職、国家一般職**

公務員試験の勉強を通して私が強く意識したことは、①勉強方法②勉強時間③科目戦略の視点から「自らの置かれている状況を把握した上で、何をすべき

## 勉強方法や時間配分工夫

か考えて適切な行動をとる」という点です。

1年次に受講した宅建講座で、作業のように漫然と過去問題を解く方法で失敗した経験から、学習の量よりも質を重視しました。一つひとつの文章を丁寧に読み、「なぜ金融緩和をする」とGDPが上昇するのか「要素の錯誤」の意味とは「などと考えるながら読み進めました。記憶の持続時間が上がり、応用力が付くメリットがあります。一緒に公務員を目指す仲間、勉強した内容を分かりやすく説明してみ、日常的に理解度をチェックする手法も取り入れました。公務員試験の対策は2年次の12月に始まり、4年次の8月ま

で続く長丁場です。モチベーションを維持しながら勉強を進めることが合格の重要な要素となります。私のモチベーション維持の方法は、勉強の計画作りです。締切日と、それまでにしなければならぬ問題数を決め、締切日までの日数で問題数を割って、1日のノルマを算出しました。日々の勉強に緊張感を持たせることができました。公務員試験は約30科目と科目数が多いですが、全てで満点を取る必要はありません。試験種ごとに必要な科目も違うため、人によって重要度が変わります。「どの科目にどれくらい時間を注ぐのか」という勉強の戦略を考えることが大切だと感じました。



それをカバーできる法律の暗記科目に力を入れました。問題集の1、2周目は何度も読み、間違えても最後まで解きます。3日目からは理解度を確認しながら解きました。人名や著書名をルーズリーフにまとめて毎日持ち歩き、思い出せなかったとき

に見て覚え直しました。試験が終わる8月まで、ほぼ毎日公務員講座のメンバーと一緒に過ごしました。私の心の支えであり、目標であり、ライバルです。励まし合い、競い合って一緒に頑張ることができました。県職員は、地域の役に立ち、活性化に繋がる、とても価値のある仕事だと思えます。環境づくりや県全体を盛り上げるイベントの企画など、多くの部署で様々な経験を重ねながら、何事にも積極的に取り組んでいきたいです。

## 教育構想会議、安村学長に2項目を答申

# 「学生の実態把握」「成績評価の厳正化」

教育構想会議（議長・種田行男副学長）は9月23日、安村仁志学長から今年度諮問されていた4項目のうち、前期分の「学生の実態把握（学生を知る）」、「成績評価の厳正化」の2項目について答申した。安村学長からはさらに、高大接続改革を見据えた「個別化としてのDIP（ディプロマ・ポリシー）、APP（アドミッション・ポリシー）」と「カリキュラム・マップ CPP（カリキュラム・ポリシー）」の2項目が後期の検討課題として同会議に諮問されている。

教育構想会議は、学士課程教育の質保証や改善を進める上での教育課題を全学的に議論するため、NEXT10重点化プロジェクトの一環で、学長の諮問機関として本年4月に設置された。今回答申した2項目のうち、「学生の実態把握（学生を知る）」（部会長・照本祥敬国際教養学部教授）は、今後の諸施策の前提として、文字通り中大生の全体像を把握するための調査（無記名アンケート）を提案している。入学動機、学修の取り組み、就職、課外活動、大学評価など31項目の質問用紙を作成するとともに、調査結果を分析するプロジェクト組織の設置も提案している。

「成績評価の厳正化」（部会長・目加田慶人工学部教授）では、短期的施策が2点提案された。第一に、シラバスに学習目標、成績評価基準を明記し、「何を」「どこまで」習得すれば合格できるのかをわかりやすく記述することを目指す。

第二に、成績評価を、現状の5段階から、10段階程度に細分化し、詳細な評価をすることでより厳密な成績評価を目指す。学生が学習到達度を把握しやすくするとともに、グローバル化に即して海外の成績評価に近づけ、留学生の送り出し・受け入れを円滑にする狙いもある。さらに、中長期的の施策として「科目ナンバリングの導入」「評価規準別の成績評価の提供」「シラバスを意識した授業進行を実施できる環境整備」の3点を挙げている。

安村学長は、答申内容について

て教授会の意見も得ながら速やかに、且つ確実に具体化できるように進めていくことを目指している。

また、後期の諮問事項においては、本学の教育理念を踏まえ、総合大学の強みを活かしながら、教育目標を明確にし、より体系的な教育課程を実現するための施策の検討がなされる。それぞれ部会が設置されており、大森達也学長補佐、新里慶一法学部教授が部会長を務めることになっている。

## 個別協定校と連携を強化

国際センターは、個別協定校と、日本人学生と同じ授業を受けられるメリットや、留学生と本学学生との交流イベント、学生チューターなど、きめ細やかな対応により、連携を強化してきた。協定校の日本語教員が帰国した時に中京大学を訪問してもらうほか、本国に帰国した留学生の近況を聞いたりするなど、本学への理解や満足度を高めている。

また、受け入れ留学生のウェルカムパーティーが9月23日、名古屋キャンパスの国際センターで開かれ、本学の学生約100人と親睦を深めた。会場の国際センターでは留学生を困らなくしていくための輪ができ、専攻や母国の文化、趣味などについて会話を弾ませた。

アメリカから来たアダム・ヴァッカレラさん（3年）は「全員と話すが難しいぐらいたくさんの方が来てくれてうれしい」と話していた。

## 交換留学生

# 受け入れ最多34人

中京大学は秋学期に、アメリカ、フランス、イタリア、カナダの4カ国から29人の交換留学生を受け入れた。昨年秋季学期の19人、今年春季学期の21人と比べ大幅に増えた。春学期から継続する5人を含めると、受け入れ数は過去最多の34人となる。



本学学生約100人が留学生と会話を楽しんだウェルカムパーティー

一方、本学から今年度に派遣された留学生は、アメリカ18人、フィンランド7人、韓国、イタリア、フランス各2人の計31人となっている。本学の交換留学制度は、国際交換留学プログラムISE



パネルを見せながらプレゼンする学生

## 工学部 企業向け説明会

### 製造業など103社へ

#### 工学部生が研究発表

本学工学部の企業向け説明会が9月17日に開かれ、3年生と大学院生合せて84人が企業関係者に向けてゼミの研究成果を披露した。参加企業は製造業を中心にソフト、流通など大手・中堅の103社。学生たちはポスターで研究を紹介したり、開発したロボットを操作したりしながら、発表していた。

企業に向けた説明会は工学部開設の2013年に続き2回目。今回は、工学部の1期生の就職活動を来年に控えて実施された。34研究室が「バドミントン戦術解析のためのオンプレレイ区間検出」「大規模内視鏡像データバ

スを用いた胃がん診断支援システムの開発」などの発表ブースを構えた。学生や教員による工

学部実験棟(ものづくりスクエア)の実験設備の説明も行われた。

発表を行った伊藤貴洋さん(3年)は「ポスターセッションの機会は初めてだが、笑顔が心がけた。自分の取り組んでいる研究をわかりやすく、身振り手振りを交えて伝えることができたと、手ごたえを感じていた。

井口弘和学部長も「学生には企業が何を期待しているか、肌で感じてほしい。企業の方には学生のプレゼンを聞いて、ご指導いただきたい」と話していた。

## 総合政策学部 桑原ゼミ

### 入ろう豊田市消防団

#### 「1日体験」を事業化

総合政策学部桑原プロジェクト研究(指導教員＝桑原英明教授)の3年生3人が8月24日、昨年度から事業化に取り組んできた「豊田市消防団1日体験入団 Let's try "Happy SBD"」事業について太田稔彦市長に説

明した。写真  
同事業は、若  
者を対象として  
いる。地域社会  
の防災を担う消  
防団活動への理  
解を深め、消防  
団への入団促進  
が目的だ。本学  
と豊田市が締結  
した包括連携協  
定の第1弾。  
体験入団プログラ  
ムは、消防防  
団活動の基盤とな  
る放水体験、消  
防団詰所の見学  
など。女性消



防団員のカラーガード隊や豊田市操法大会を見学、模擬放水訓練を受けて、上田彩加さんら4人が開発した。

応募者から抽選で選ばれた大學生・専門学校生約20人が11月22日に、豊田市消防本部で体験入団する。太田市長は「消防団員の獲得は豊田市にとって重要なテーマ。女性ならではの切り口から提案いただき感謝している。近隣大学と連携し、事業を発展させていきたい」と期待を述べた。  
桑原教授は「卒業生たちの成果を受け継いで事業化が実現できた」と話している。

## 総合政策学部 市島ゼミ

### 小学生に「出前トーク」 豊田市選管が採用



小学生向けの授業を発表する学生

が結ぶ包括協定の一環。豊田市と愛知県の選挙管理委員会との10人に、2・3年生が提案する「出前授業」2案を披露した。

千村小夏さん(2年)は、「投票

市島宗典・総合政策学部准教授のゼミ生が8月4日、豊田市選挙管理委員会が小学生に選挙の大切さを教える「選挙出前トーク」について、豊田市役所で企画を提案した。本学と豊田市

のワナ」をキーワードに、アメリカの小学校で実際に実施されている「Yes! No!多数決」を参考に授業を企画した。審査した選管委員・事務局からは「とても良いキーワードで、

小学生の心に残ると思う」などの意見があった。富田慶さん(3年)は、祭りや車を題材にした公約を掲げ、公職選挙法で認められている選挙公報やポスター、政見放送を制作。「選挙の現場を知っているからこそ、思いやこだわりの詰まった意見をもらえた。これからのゼミ活動に生かしていきたい」と意欲を見せていた。  
豊田市選挙管理委員会は、今回の提案を基にした「出前トーク」を9月から実施している。川上博委員長は「18歳への選挙年齢引き下げを受け、学校現場と連携を取りながら、新しい企画を取り入れたい。学生たちの授業による成果を期待している」と話している。

## 第31回 中京大学全国同窓会

## 和歌山に138人集結

第31回中京大学全国同窓会が9月26日、和歌山市で開かれ、和歌山県在住を含めた同窓生ら112人と中京大学関係者の合計138人が参加し、交流を深めた。

同窓会長の森谷敏夫・京都大学大学院教授(72年体育卒)は「中京大学はこの間、目覚ましく発展してきました。おごることなく今後も発展を続けるために、学園創立100周年を見据えますます進化を遂げてほしい」と挨拶。

梅村清英理事長は冒頭に同窓



肩を組み、学歌を熱唱する理事長(左から3人目)や同窓生ら

## 「学園創立100周年見据え進化を」

森谷 敏夫 同窓会長

会、同窓生への御礼を述べた後「理事長に就任しまもなく2年になりました。昨年は大学開学60周年を迎えました。この間NEXT10も着実に進めています。2023年学園創立100周年に向け様々なプロジェクト、記念行事を予定しています。今後もアジアを中心に国際化を進めていきたいと思っています」と述べた。

安村仁志学長は「41年の勤務の間に大学が発展していくのを見てきました。一本の若枝が大きく育ち12万人の卒業生という大木になりました。実り(果実)の県和歌山で全国同窓会を開くことができ幸せです」と挨拶。

懇親会が始まるとアトラクションとして落語家の桂枝曾丸(かつらしそまる)さんが登壇。漫談や似顔絵などで会場を沸かせた。

その後50年にわたり和歌山県支部長を務めた四至本晴夫(ししもとはるお)さん(64年体育卒)

の勇退セレモニーが行われた。「4代にわたる理事長のもと、大学の発展を見ました。梅村清明先生の『教育は人なり』の言葉を胸に自分の教員人生を全うできました。本当にありがとうございました」と挨拶、花束が贈られた。最後に全員で学歌を高らかに唄い、閉幕となった。

今大会の運営にご協力いただいた熊崎訓自(くまざきくんじ)事務局長(70年商卒)は「この支部には1000人におよぶ同窓生がいらっしゃる。各クラブや各職域、教員や地域などで運用していこうと努力しています。支部同窓会のモデルになれるように努力していきます」と抱負を述べた。

メンバーとして運営に携わった石井幸太さん(00年体育卒)は「現在は教員として陸上競技部を12年指導している。先輩に手ほどきしてもらったことが役に立っています。今日は先輩方に楽しんでもらいたいと思います」と語った。

大学の出会いが転機  
小学校時代の夢実現

上山 真未さん  
東海テレビ アナウンサー

「アナウンサーになりたい」と小学校の卒業文集で書いた。当時は「憧れ」に近い夢だった。本学に入学した理由は、英語

を学びたい、という思いが先だった。学力別の英語のクラスで一番レベルの高いクラスに属することにになり、まわりは帰国子女レベルの学生ばかり。

最初はついていけずに戸惑ったが、活発なタイプの学生が多く、上山さんも引く張られるように頑張った。寝る間を惜しんで学んだ。

「働くなら地元のテレビ局で」。その思いを面接でぶつけた。内定をもらった時、地元が誰よりも好きだという思いが通じたと感じた。

就職活動を意識し始めた大学3年に転機が訪れる。アナウンサー志望の友人の存在だ。上山さんは最初、旅行業や薬品業界に興味を持って

現在は「ドラHOT+(ドラホットプラス)」などの番組を担当している。アドリブも最初は不



安があったが、笑顔で対応できるようにになった。いつも徹底して準備するのが上山さんの信条だ。準備することで「平常心」を保って進行できるのだという。よく通る美しい声は評価が高い。「うまく答えるより、人間味が出るほうがいい、とある時に気が付いたんです。うまいアナウンサーではなく、いいアナウンサーになりたい」。

●岐阜県郡上市出身。2013年中京大学国際英語学部卒。東海テレビ放送株式会社編成局アナウンサー所属。「ドラHOT+(ドラホットプラス)」などの番組を担当。

## オープンキャンパス



オープンキャンパスin豊田

受験生らに中京大学の講義の様子や施設を知ってもらおうオープンキャンパスが7月18、19日に名古屋、9月20日に豊田の両キャンパスで行われた。名古屋8574人、豊田14544人の計1万28人が参加。参加者は初めて1万人を突破した。今春から4専攻となった現代社会学部の「教育問題から考え

### 初の1万人突破

### 受験生らがキャンパス・ライフ体験

る学校／社会のカタチ」をはじめとする模擬講義が全11学部で実施され、3日間で延べ80講座が開かれた。学部学科の説明をはじめ、入試説明会、保護者ガイダンス、施設見学なども催され、受験を希望する高校生や保護者らが中京大学のキャンパス・ライフを体験した。

アンケートには、「学生によるプレゼンテーションに熱がこもっていて、自分も挑戦してみた」と感じた」といった、大学の学びへの関心が高まったという声のほか、「学生の挨拶が気持ちよく、困っているとすぐに声をかけてくれた」など、学生の対応が良かったという声が多く寄せられた。



オープンキャンパスin名古屋

## キャンパス見学会とホームカミングデー 4251人が来場

保護者らに向けた「キャンパス見学会」と、卒業生対象の「ホームカミングデー」が10月31日名古屋・豊田の両キャンパスで行われ、計4251人が中京大学を訪れた。例年、大学祭と同時間催され、学生や近隣住民も加わってにぎわった。

見学ツアーには、延べ642人が参加。スポーツ施設や特別に公開した古文書室、本学開学当時の資料などを見学した。保護者からは、「図書館は専門書なども揃っていて、子どもにぜひ活用するよう伝えたい」などの声があった。



開学当時の資料を見るキャンパス見学ツアー参加者

毎年楽しみに訪れるという卒業生は「中京大学が発展していく様子が実感できる」と、活気あふれるキャンパスをカメラに取っていた。

## 図書館の貴重書 16

### 名府梵天図会 (貴134) 名古屋の梵天祭の絵図集

『名府梵天図会』は、猿猴庵こと尾張藩士高力種信が著した、名古屋の梵天祭における各町の山車行列の絵図集。同祭は町々が造形物(梵天)を作って練り歩いた祭礼で、宝暦十三年(1763)、天明五年(1785)、文化八年(1811)などに大流行したという。表紙に貼られた題簽には「天明乙巳梵天図会」とあり、天明五年の梵天祭を描いたもの。『尾陽劇場事始』等の著作も知られる名古屋本町三丁目の本屋、西村海辺(指峯堂 釋笑)の序文がある。



全四巻四冊で、巻一と二は「立町之部」(南北の通りの町々) 四八町、巻三は「横町之部」(東西の通りの町々) 二七町、巻四は「混雑之部」(その他の町々) 二七町からなる。各町毎に見開き(例外あり)で山車行列が描かれ、説明が付されている。彩色はない。

本書には、名古屋市鶴舞中央図書館、西尾市岩瀬文庫に、それぞれ猿猴庵自筆稿本と見られる本がある。比べてみると、転写された中京大本は説明に多少異なる箇所があるが、加除修正と思われる箇所もある。江戸時代中期の梵天祭の様子を伝える、貴重な資料である。

(文学部教授 柳沢昌紀)

## スポーツ科学部 和光理奈ゼミ 創造し全身で表現 学校行事の運営も

和光理奈講師のゼミのテーマは「ダンスを通じた自己表現」だ。小中学校で必修化され、「先生になるにあたって学んでおきたい」と教員志望の学生も多い。総合芸術であるダンスは、衣装や照明・音、小道具などを加えながら、全身を使って表現する。



表現方法を模索するゼミ生ら

4年生の卒業制作は、「創作ダンス発表会」(12月23日13時、豊田市民会館大ホール)で披露される。杉戸美月さん(4年)は「経験者

だけではないが、その分、少ない時間でも集まって練習してきた。一体感のある団体表現に注目してほしい」と話している。

発表会には、和光講師の講義「スポーツ実技B(ダンス)」の受講者からも20チームが出演。ゼミ生は企画者としてもイベントを支える。舞台制作や出演者の作品指導などを通じて、裏方と

して教員が学校行事をどのよう運営していくかも学んでいる。6月には、豊田市立稲武小学校に出向き、児童にダンスの指導も行った。教員志望の遠藤毅

也さん(3年)は、「教えた動きができるようになり、子どもたちが成長する瞬間に立ち会えた」と目を輝かせた。教える立場として自己肯定感も高まっている。

## 現代社会学部 亀井哲也ゼミ 資料に触れながら 展示や調査方法学ぶ

中京大学祭の前に、亀井哲也教授のゼミは「オリンピック」 「明治末期の小学校の運動会双六」

などを学ぶ。現在は、教員らが集めた古いスポーツ用具や大会記念のバッジ、皿といったスポー

などの4テーマに分かれ、展示の準備に追われていた。ゼミのテーマは文化人類学的物質文化研究。資料の整理・保管・展示方法な



展示準備をするゼミ生と亀井教授(左)

ツ分野の資料整理や調査に取り組んでいる。

研究や調査の結果をどう表現するか。展示パネル作成にはブレゼンテーションのスキルも必要だ。第1回アテネ五輪のポスターに添える説明文「キャプシオン」を作成していた今岡禎美さん(3年)は「重要な部分を伝えて、かつ、読みやすくなるよう、常に考えている」と話す。

亀井教授は、「器一つに注目しても、機能性、芸術性、威信財などの価値があったりする。話して、聞いて、調べて、初めてわかるものがある」と、資料の価値や意味を、多面的に捉えてほしいと学生に期待している。

今年、豊田キャンパスに資料保管室を備えた博物館実習室が整備された。亀井教授は「展示して終わりではなく、資料の保存や整理をいかに継続していくかが大切」と力を込めた。

## ゼミに + フォーカス focus on seminars

【第6回テーマ】「アート」

### 工学部 曾我部ゼミ

## ユーザー目線に立ち 映像の面白さ伝える

子どもたちが操るイカとタコがモニターの中で墨をぶつけ合い、わっと歓声が



方法のわかりやすさにこだわってボタンや画面をデザインしている。利用者の評判を呼び、2日間延べ556人が楽しんだ。「ゲームを作るにしろ、映像を作るにしろ、技術を見せるので

上がった。曾我部哲也講師のゼミはCGや実写映画の作成、アプリ開発などを扱う。9月26、27日、とよた産業フェスタにワークショップを出展し、ゼミ生の作成したゲームを披露した。写真。操作

は、お客さんであるユーザーを楽しませようという気持ちで取り組んでほしい。曾我部講師は学生に、作り手としての心構えを「サービスパークンであれ」と伝える。ゼミは今年4月にも、世界自闭症啓発デーのイベントに協力している。カウントダウンの特設サイトや自闭症の理解を促すゲームアプリは、イベント参加者や自闭症の当事者にも使いやすいと好評だった。「ユーザーの反応を見て、制作の実感が湧いた。次の作品作りに繋げていきたい」と、大嶋克聡さん(3年)は意欲を語っていた。

## NHKラジオ「中部ジモ女の選択」

### 仕事の苦勞などホンネ語る 中京大学の公開録音に卒業生

NHK名古屋放送局によるラジオ、「中部ジモ女の選択」ホンネで語ろうラジオin中京大学の公開録音が10月24日、中京大学センタービルのヤマテホールで行われた。

NHK放送局は中部7局で、2015年「中部ジモ女の選択」というテーマで、中部地区で働く女性の生き方について番組やイベントを行っている。その一環としてラジオでは「ホンネで語ろうラジオ」と言う特集番組を随時制作し放送しているが、その会場および出演者として今回中京大学が選ばれた。

当日は朝からNHK名古屋放送局の多数のスタッフによる設営が行われ、午後2時から開演となった。

出演者として中京大学卒業生の白井沙織さん（14年現代社会卒）、中山紋加さん（13年国際教養卒）、中西真利恵さん（12年経営卒）の3人と、キャリアコンサルタントの柴田朋子さん、ファッションデザイナーのドン小西さん、他2人が参加し、NHKアナウンサーの黒崎めぐみさんが司会を行った。



出演した卒業生の(左から)白井さん、中山さん、中西さん

卒業生の3人は地元就職した動機として中部地区の良さや「人や社会の役に立ちたい」「好きなことを仕事にしたい」と語った。

また「今は与えられた仕事をこなすのが精いっぱい」「好きなことでも仕事になると別」など苦勞している点を語った。

ドン小西さんは「与えられた仕事をこなせるようになるには何年かかかる。それからいかに自分らしさを出せるかが大事」と話し、柴田さんは「好きなことを仕事にした実際の落差に耐

えたうえで提案を」とアドバイスした。  
最後に「何のために働くのか、誇りを持つことが大事」「直感を大切に」「失敗を恐れずに」など卒業生から在学生へのエールが送られた。

公開録音には約50人の観覧者が参加し、中京大学の学生も参加した。観覧者の安藤柊平さん（経済学部3年）は「男女関係なく、悩んでもいいのだというアドバイスが新鮮だった」と語った。また出村友妃子さん（総合政策学部2年）は「就職活動に

対して不安な気持ちがあったが、まずは自分のやりたいことをやってみようと思いました」と語り、将来の就職についての意欲を高めた。  
放送は11月9日(月)に、午後9時5分から50分間、NHKラジオ第一(中部7県)にて行われた。



## 中京大学祭

10月30日-11月1日

「今年も多くの方にお越しいただきました。本学学生と地域の方とのふれあいの場として、大切な思い出の1つになりましたら幸いです。ご支援、ご協力ありがとうございました」  
(名古屋・豊田実行委員一同)



スポーツ会議が正式発足

# 「学術とスポーツの融合」

東京五輪対応など実施へ

中京大学を中心とした梅村学園のスポーツ全般の施策を推進する「梅村学園・中京大学スポーツ将来構想会議」（議長・北川薫前学長・学事顧問、略称スポーツ会議）が9月1日、梅村学園理事会の下で正式な会議として設置された。同時に、実行委員会（委員長・北川議長、委員9人）が組織され、施策の具体化が始まった。

スポーツ会議は、建学の精神

に基づく「学術とスポーツの融合」を掲げ、スポーツに関する教育・研究・社会貢献活動を戦略的に展開し、国際社会の期待に応える人材の育成を目標としている。

昨年9月、梅村清英理事長が「中京大学を中心とした梅村学園のスポーツ全般を見通した施策の考案」を北川議長に諮問。学園理事、教職員25人が会議、小委員会で議論を重ね、20年東

京オリンピック。パラリンピック対応も含め17事業をまとめて答申していた。

17事業は、スポーツ・アーカイブズの作成、オリンピック教育の実施、キャンプ地誘致、地域貢献、スポーツグッズ作成、スポーツ施設整備、ボランティア育成、スポーツ教室開催など多岐にわたる。財政面なども勘案し、短期と中長期に分けて取り組むことになっている。



秋季リーグ最終の10月24日の名城大戦で、ホームに滑り込む鈴木選手

## 硬式野球リーグ優勝 4季ぶり35回目

硬式野球部は愛知大学野球秋季リーグ戦で2013年秋以来、4季ぶり35回目の優勝を果たした。成績は10勝1敗、他の5大学すべてから勝ち点を挙げる完全優勝だった。

春季リーグ戦では優勝にあと一步と迫りながら、優勝のかかった試合で自分たちの力を発揮することができず、結局3位に止まった。このため、「心身両面からの強化」に半田卓也監督は

じめチーム一丸となって取り組んできた。中でも打撃力アップが際立った。ファースト・ストライクを積極的に振っていくことを心がけたことで、長打力が飛躍的に伸び、得点力が高まった。それが選手たちの自信にもつながっていった。接戦をことごとくものにする強さはその証でもあった。

チームは東海・北陸・愛知三連盟王座決定戦決勝に進んだが、11月2日の愛大戦で敗退し、明治神宮大会出場を逃した。

## インカレで各クラブ活躍

大学対抗の競技会、インターカレッジ（インカレ）で、今年も体育会各クラブの活躍が目立っている。

水泳部は日本学生選手権（9月4～6日、浜松市）で男子が総合成績2位を獲得、女子が4位となった。特に男子は1位の明治大と最後まで接戦を演じた。男子1000メートル背泳ぎでは、川本武史選手（スポーツ科学部3年）が優勝、江戸勇馬選手（同4年）2位、長谷川純矢選手（同）3位と表彰台を独占、中京大学水泳部では33年ぶりの快挙となった。陸上競技部は日本学生対校選手権（9月11～13日、大阪市）で、



世界体操で活躍した寺本選手（左）と湯元選手

## 体操の寺本・湯元選手 女子団体リオ五輪 出場権獲得に貢献

体操競技部の寺本明日香選手（スポーツ科学部2年）と湯元さくら選手（同1年）が、世界選手権（10月23日～11月1日、英国グラスゴー）の女子団体総合に出場、日本チームは5位に入賞した。8位以内には与えられるリオデジャネイロ・オリンピック女子団体出場権の獲得に、2選手が大きく貢献した。

また、寺本選手は女子個人総合にも出場し、決勝で9位となった。跳馬で高得点を出すなど、予選の21位から大幅に順位を上げた。

## アルティメット女子優勝

男子十種競技の清水剛士選手（情報理工学部4年）が初優勝を飾った。選手のけがなどもあり、総合成績は男子8位、女子13位にとどまった。

体操の全日本学生競技選手権（8月20～22日、上越市）では、寺本明日香選手（スポーツ科学部2年）が個人総合で優勝する活躍を見せ、女子団体総合で2位に輝いた。新体操の白井優華選手（同3年）も男子個人総合で優勝を果たした。

また、アルティメット部は全日本大学選手権（9月26日、東京）で、女子が4年ぶり9回目の優勝、男子は5位となった。



ボランティアを始めよう  
ボランティア推進団体  
「CUVE」初の講演会

本学の学生によるボランティア推進団体「CUVE」が初めての講演会「はじめてみよう！ボランティア」を7月13日、名古屋キャンパスで開いた。活動に興味を持った一般学生約50人が参加。

ボランティアの心構えやCUVEに所属する学生の体験談に耳を傾け、やってみようという活動について意見を出し合った。

講師は本学の卒業生で名古屋市社会福祉協議会に勤める村田敏明さん（14年現代社会卒）。自主性・無報酬性・社会性からなるボランティア活動の原則や「誰に」「どんなことをしたら助かるか」「自分たちにできる活

## ボランティアを始めよう ボランティア推進団体 「CUVE」初の講演会

本学の学生によるボランティア推進団体「CUVE」が初めての講演会「はじめてみよう！ボランティア」を7月13日、名古屋キャンパスで開いた。活動に興味を持った一般学生約50人が参加。



講演会でボランティア経験を話す学生

動「実現に必要なこと」といった、活動を探す際のヒントを伝えた。

CUVE代表の鈴木峻哉さん（心理学部4年）は、「子どもが好きなので、養護施設で3〜6歳の子どもたちとふれ合う活動をしている。子どもたちのお兄さんとして成長を見守ることをはじめ、ボランティアでないとできない経験がある」と魅力を語っていた。

CUVE (Chukyo University Volunteer Entrance) は、学内外のボランティア情報を発信して気軽に参加してもらう環境づくりを目的に、今年4月に発足した。現在、ボランティア活動を行うサークル5団体が所属している。

## 経営学部 中村ゼミ



## 和菓子やアプリ 産学連携で開発

経営学部の中村ゼミ（指導教員＝中村雅章教授）が伝統工芸品や和菓子、アプリなど、産学連携による商品開発に力を入れている。

有松絞り販売の「まり木綿」と共同でポーチを作成。スカーフやリボンとしてポーチを活用する方法を提案した。愛知県津島市の工房「木桶の栗田」と昨年12月から開発してきた米びつ2種類は、9月25〜27日の「尾張名古屋の職人展」に出展した。ハロウィンの向け、かぼちゃを使った和菓子「パンプキンとん」ハロウイろう」写真を、納

経営学部の中村ゼミ（指導教員＝中村雅章教授）が伝統工芸品や和菓子、アプリなど、産学連携による商品開発に力を入れている。

有松絞り販売の「まり木綿」と共同でポーチを作成。スカーフやリボンとしてポーチを活用する方法を提案した。愛知県津島市の工房「木桶の栗田」と昨年12月から開発してきた米びつ2種類は、9月25〜27日の「尾張名古屋の職人展」に出展した。ハロウィンの向け、かぼちゃを使った和菓子「パンプキンとん」ハロウイろう」写真を、納

屋橋饅頭万松庵（名古屋市）と共同開発。10月の限定で1013個を売り上げた。中京大学祭などのイベント時には、ゼミ生が店頭で商品説明を行った。「緑のパン工場アンジェイ」（名古屋市）と開発したパン2種類は、10月28、29日に学内でゼミ生が販売。290個が完売した。たこウインナーのキャラクターと一緒に経営学の基礎知識を学べるスマートフォンアプリもリリースした。教育・知育アプリを開発するグロウディングとの共同開発で、普段の学習を基に200問を解説している。

## 国際英語学部 森山ゼミ

## 豊田市の記念式典で 通訳ボランティア

国際英語学部森山ゼミ（指導教員＝森山真吾講師）生ら7人が、7月26日に豊田市コンサートホールで開催された豊田市と米国デトロイト市との姉妹都市提携55周年記念式典で、通訳ボランティアとして活動した。本学と豊田市の包括連携協定の一環で、通訳ボランティアは初めての取り組み。

参加した学生は、デトロイト



市長ら来賓と豊田市関係者との間に入って通訳のアシスタントに挑戦した。式典の受付や案内業務の補助などにも携わった。式典終了後に行われた交流会では、来賓や豊田市でホームステイをしているデトロイト市出身の高校生

らと英語を使って交流を深めた。学生からは、「自分の英語が人の役に立ったと実感できた」などと、自信に繋がる声が聞かれた。一方で、「コミュニケーションを円滑にするためには、英語力にもっと磨きをかけなければならぬと感じた」「社会人としての立ち居振る舞いにも気を配りたい」と、今後の学習に向けて新しい課題を見つける機会にもなった。

豊田市からは国際化に向けてさらに本学の力を借りたい、という要望もあり、「機会があれば是非また参加したい」と、学生も意欲的だ。



経済研究所は本学経済学部附置の研究所として経済学部開設の翌年、1988年に設置された。経済学部の教員全員が所員となっている。経済学の基礎理論そのものを見直しながら、実証分析に基づいた新たな考え方の構築を目指している。

2014年度には大小計16回ものセミナーを開くなど、活発に意見交換を行っている。釜田公良研究所長（経済学部教授）は「研究員同士が刺激し合い、日常的に一人ひとりが自発的に研究を行う環境が整っている」と、強調する。学内外の経済研究者が共同・連携して進められた研究内容や成果は、講義を通して学生に還元されている。

# 経済学の新しい枠組み 構築目指し活発に活動

## 経済研究所



男女雇用機会均等法が施行されても、労働市場ですぐに男女が平等に扱われる訳ではなく、地域や職場、家族によるサポートや理解がなければ適切に機

探っている。

「市場の質理論」は、市場には良い市場と悪い市場があり、現代経済の健全な発展・成長には高質な市場が必要、とする理論。2008年に日本経済学会で初めて提示された。プロジェクトは、市場の質理論の視点から、労働市場や証券市場などにおける適切な制度設計の在り方を探っている。

国連の「持続可能な開発ソリューション・ネットワーク」が今年4月に発表した世界の幸福度ランキングで、日本は昨年より順位を3つ落とし46位だった。「日本の科学技術は最先端なのに、幸福度が低い。なぜ技術が豊かさに繋がらないのだろうか」。古川雄一所員（経済学部准教授）らは、原因が「市場の質」が低いことにあると仮説を立て、研究プロジェクト「市場制度と市場の質のダイナミクス」に取り組んでいる。

## モノづくりとモノづく 意識が幸福度高める

能しなかつた。発展途上国で特許法が制定されても、違法コピーは減っていない。古川所員は「人々の意識や理解がないと、いくら良い技術や法律があっても変わらない。市場の質を上げるには、モノづくり」と「モノづくかい」双方が必要になると話している。

大規模なアンケート調査を重ね、データの蓄積にも努める。「株式投資をしていますか」「いくら投資をしていますか」「不法

行為が多く行われていると思いませんか」など、毎年同じ人に対して同じ質問を行うパネルデータを用い、証券市場への理解度と満足度の相関関係を分析している。

「経済学はモノづくりを支えるような研究。消費者や国民との認識のズレを埋められるよう、作っている側に説明責任があることを意識づけしていきたい。古川所員は、プロジェクトの最終目標として政策提言を掲げている。

### その他の研究プロジェクトと中間報告

プロジェクト名	概要
公共経済学研究	公共経済学の中で、各研究員が専門とする経済成長、教育、地方財政、公的年金、公共投資、所得分配の分野を扱い、研究叢書等で公表する。
グローバル化する労働市場の経済分析	日本の労働市場が多国間経済連携協定などのグローバル化を受けてどのような局面に至るか。望ましい政策提言を導くため理論・実証分析する。
応用計量経済学研究	実証研究のさらなる深化を目的に、実証可能なモデルの構築、計量の最新理論（マクロ計量・ベイズ・時系列など）を利用した実証分析を行う。
グローバル経済の計量モデリングに関する研究 2	長期低迷からの脱出に手間取る日本経済の課題に対して、計量経済モデルや産業連関モデルなどの分析を通して、新たなモデリング技法を研究。
水資源マネジメントを考慮した流域環境政策の検討	愛知県の豊川流域を対象に地域特性（人口動態や産業構造、環境負荷など）を考慮の上、経済活動に伴う水利用を分析、最適な政策評価を行う。
世代間問題の経済分析	少子高齢化、社会保障、社会資本、環境、教育、文化、地域振興などの世代間・異時点間にまたがる問題を、経済学的視点から理論的および実証的に分析。
地域政策研究プロジェクト —名古屋都市圏における 鉄道施設の高度利用評価—	地域政策に関する経済分析が対象。名古屋都市圏で鉄道施設の高度利用が地域に与える影響について、経済分析に基づき評価している。



# 7つの研究力

## 多彩なセミナー 研究の活性化促す

経済研究所は、「研究所セミナー」「八事セミナー」「特別セミナー」の3種類のセミナーを開いている。昨年度は16回を開催した。いずれも、研究員だけでなく、学部生や大学院生も参加できる。活発に発表できる環境を作ることで、研究内容を共有し、さらなる研究の活性化に繋げている。

研究所セミナーは、年間約10回開催されている。所員が興味を持ったテーマや自身の研究に即して、外部から講師を呼んでいる。7月8日の研究所セミナーは、本学出身の斎藤祐樹さん（大阪大経済研究科博士後期課程1年）が研究報告した。政府が知的財産権保護政策を強めると、企業はそれまで以上に生産過程を他国企業に任せるようになり、政策が厳しすぎない限り経済成長や社会厚生への改善に繋がると結論付けた。八事セミナーは、研究プロジェクトの成果を報告する場として開かれている。講師は経済研究所メンバーが担当する。昨年度は4回

開かれた。特別セミナーは年に1度開催し、国内外の著名な研究者を複数招く。2011年度には京都大学と共同開催し、3日間にわたり「国際貿易とマクロ経済のダイナミクス」を共通テーマとして、19研究者が成果を持ち寄った。今年2月は、研究交流協定を結んでいるイタリアのバリー大学から招聘された3研究者が二国間投資協定や、EU経済の近況について発表した。本学の3所員も最新の研究成果を紹介し、さらなる研究交流を誓っていた。

### 【2015年度特別セミナー】

テーマ：昨今のマクロ金融政策に関する考察

報告者：地主 敏樹（神戸大学教授）

宮尾 龍蔵（東京大学教授）

竹田 陽介（上智大学教授）

コーディネーター：英 邦広所員（経済学部准教授）

2016年1月30日開催予定

## 活発な研究活動 発行物で報告

経済研究所の活動成果は、叢書と論文形式のディスカッション・ペーパーによって、国内外の研究機関に配布・公表されている。

「中京大学経済学部附属経済研究所研究叢書」は、研究プロジェクトの成果として、「鉄

道と地域発展」「経済学周辺の確率過程と教育」など、現在、第23輯まで発行されている。ディスカッション・ペーパーは年間約10回発行され、研究所ホームページにも掲載する。研究成果を迅速に広く公表することによって、研究者や行政から幅広く意見を求め、論文発表に繋がっている。また、研究成果をPRする役目も果たしている。



研究叢書

ディスカッション・ペーパー

### 研究所 DATA

開設 1988年

研究員数 60人

※内訳：所員23人、研究員37人

定期刊行物

「経済学部附属経済研究所研究叢書」、

「Discussion Paper」

特別セミナー

「The New Trend of Globalization, Economic Growth and Regional Economy」(2014年度)

## スポーツ科学部の荒牧教授

# 内閣府「IMPACT」に参画 スポーツと脳の関係解明へ

スポーツ科学部の荒牧勇教授が、内閣府の革新的研究開発推進プログラム「IMPACT」の研究に参画する。荒牧教授の「脳の健康プログラム」が、山川義徳IMPACTプログラム・マネージャーが進めるプログラム「脳情報の可視化と制御による活力溢れる生活の実現」のカテゴリの一つとして公募採択され、荒牧教授がグループ責任者の一人となる。国立研究開発法人・科学技術振興機構と梅村学園がこのほど正式契約した。本学教員がIMPACTの研究に参画するのは初めてとなる。

荒牧教授の「脳の健康プログラム」は、さまざまなスポーツ・トレーニング、コンディショニングが、脳にどのような影響を与えるかを脳構造や脳機能を計測解析することで明らかにし、脳を鍛える新しいトレーニングやコンディショニングの手法を開発する。

海外の研究では、高齢者に有酸素運動をさせると脳の海馬が拡大する、という報告があり、荒牧教授は「私の研究も、運動プログラムが運動機能だけでなく、脳の認知機能、情動機能に好影響を与えることを示すのが目標です」としている。



高圧ルームの操作法を確かめる荒牧教授(左)と  
フィギュアスケートの宇野昌磨選手(中央)ら

研究費は2019年3月までの全期間で4500万円。2015年度はステーションとして1500万円。10月末には酸素ルームを豊田キャンパス15号館階の実験室に設置した。高圧ルームと低圧ルームの2種類を備え、最先端のトレーニング



荒牧教授

グコンディショニングの環境を整えた。今後、中央大学のアスリート向けトレーニング指導組織であるCISPや民間企業とも連携しながら研究を進める。トレーニングが脳に与える効果が科学的に検証できれば、将来

的には効果の高い動作をビックアップして一般の人に適應する予定。また、山川プログラムでは、2016年度以降のステージ2とステージ3において協力企業からのマッチングファンド形式での研究開発を行うことを必要としていることから、今後各企業にプロジェクトへの参画協力

を募ることとしている。荒牧教授は、「スポーツと脳の関係はまだわからないことだらけ。運動機能だけでなく、認知や情動にも好影響のあるトレーニングやコンディショニングを提案したい。こうした研究に興味のある学生が大学院に進学してこられることも期待している」と話している。

## 名古屋科学館との連携講座

# タブレットで風をあやつろう!

## 人工知能高等研究所

本学人工知能高等研究所と名古屋科学館は9月12日、小学生対象の講座「タブレットで風をあやつろう!」を開催した。

工学部の学生13人も協力し、保護者や子どもたちをサポートした。

回路の設計を一緒に担当した広田俊也さん(3年)は「中学生レベルの内容なので小学生の子どもたちに伝えるのは難しかった。理解してくれる子どもも多く、

最初に電子工作で回路を組み、うちわで扇風機をあおいで発電をおこなった。次にタブレットからの遠隔操作にも挑戦した。最後にタブレットから扇風機に命令を送って風の強弱や、フルカラーLEDの発光・発熱の状態をコントロールさせた。工学部の山田雅之教授、宮崎慎也教授や中貴俊講師らの指導のほか

予想以上の出来だったが、伝える力が今後の課題と感じた。どのように物が動いているのかしゅくみを理解してほしい」と語った。沼田宗敏・人工知能高等研究所副所長は「最先端の技術を大学の教員と学ぼうと2年前から行っている。ぜひ教員や学生と最新の技術を学んでほしい」と期待を示した。



小学生に作業を指示するアシスタントの学生

子どもたちは教員やアシスタントの学生のサポートを受け、終始真剣に、そして楽しく講座を受講した。

一昨年9月、本学人工知能高等研究所と名古屋科学館は、人工知能など情報科学分野の教育・研究活動を連携して実施するため、相互協力協定を締結した。今回の連携講座は、協定に基づいた市民向け講座「最高の科学技術子どもたちに!」と学教授と学ぶものづくり」として3年連続して実施された。

●秋月秀一さんと橋本学教授(工学部)が発表賞



(左から)橋本教授、秋月さん

ロボット視覚の課題  
論理的に解決・実証

第18回画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2015、7月27-30日、大阪)で秋月秀一さん(情報科学研究科博士後期課程2年)と橋本学・工学部教授の研究「3次元キーポイントマッチングのための点群密度変化と欠落に頑健なLocal Reference Frame」がインタラクティブ発表賞を受賞した。MIRUは、画像認

識技術に関連する国内最大級のシンポジウム。同賞は、発表された論文から特に優れた発表を行った研究グループを、参加者が投票によって選ぶ。受賞論文は、コンピュータによる視覚機能の実現において重要課題とされてきた「ロボット視覚座標系の幾何学的安定性の確保」問題に注目。論理的な分析に基づく効果的な解決方法を提案、性能実証した点が評価された。

●宮崎由樹助教(心理学部)、佐藤史織さんが特別優秀発表賞



宮崎助教

マスク着用で  
顔の魅力低下

心理学部の宮崎由樹助教と心理学研究科の佐藤史織さん(博士前期課程2年)が9月21日、日本心理学会第79回大会で特別優秀発表賞を受賞した。昨年度の大会のポスター発表1261件から、参加者投票で選ばれた。受賞した「顔の魅力に及ぼす衛生マスクの効果」は、北海道大学大学院文学研究科の河原純一郎准教

授との共著。発表は、日本に特有のマスク着用文化において、顔の外見的な印象の変化を調べたもの。マスクを着用した人物は、着用していない場合に比べ、魅力が低く評価された。隠れた部分の顔の特徴が分からないこと、見た目の健康さの低下に由来することも検証している。

著書紹介 Works Published

ニューカマーの子どもと  
移民コミュニティ

—第二世代のエスニック  
アイデンティティ—

三浦 綾希子  
(国際教養学部講師)著

本書は、フィリピン系ニューカマー第二世代のエスニックアイデンティティの有り様を移民コミュニティとの関わりから描き出したものである。エスニック教会や地域の学習室を中心に作られる移民コミュニティが豊富な社会関係資本を生み出し、それがフィリピン系ニューカマー第二世代たちの育ちに影響を及ぼしていることを明らかにしている。

勁草書房 2015年2月25日刊  
312頁 本体4,000円+税

毎日7秒健康操

湯浅 景元

(スポーツ科学部教授)著

この本は、2009年に日本で出版された「一生健康7秒体操」(角川SSコミュニケーションズ)の台湾翻訳版である。「一生健康7秒体操」は、出版から6年経つが、現在でも増刷出版されている。主な内容は、アイソメトリックスという筋トレを中心とした関節痛などを予防するための運動の紹介である。こういった内容を台湾でも普及させたいという台湾の出版社の意向により、出版が実現したのである。

養沛文化館 2015年4月刊  
111頁 本体250円

長生きの新常識大事典

湯浅 景元

(スポーツ科学部教授)他監修

この本のタイトルに「長生き」とあるが、これは生きる時間を長くすることだけを表しているのではない。与えられた寿命を介護の必要などなく自立して生きる時間を長くすることを意味している。自立して生きるために必要な生活習慣を医学・運動学・栄養学の面から説くのがこの本のねらいである。加齢制御医学が専門の白澤卓二氏と東洋医学が専門の川嶋朗氏との共著である。

洋泉社 2015年4月4日刊  
111頁 本体1,200円+税

土着と近代

グローバルの大洋を行く英語圏文学

梅 正行・武井 暁子

(国際教養学部教授)他編著、

杉浦 清文

(国際英語学部准教授)他著

本書は多様性と普遍性という基本テーマに、土着と近代、グローバルとローカルを絡め、英語圏文学で起こるトリレンマに挑戦。「移動する土着、移動する近代」(梅正行)、「空洞化する近代」(武井暁子)、「カリブ海地域における〈新〉植民地主義と土着/近代」、「索引」(杉浦清文)を収録。科研課題番号15HP5048

音羽書房鶴見書店  
2015年10月1日刊 362頁  
本体3,500円+税



公開講座

景気シンポジウム  
来年の経済見通し

【申し込み】ハガキ、またはFAXにお名前、ご住所、電話番号、「12月1日シンポジウム希望」と明記し、以下までお送り下さい。  
中京大学エクステンションセンター  
〒466-8666名古屋市中昭和区八事本町101-2  
FAX. 052-835-3980  
http://exten.chukyo-u.ac.jp/seminar/koukai\_top.php

【問い合わせ】  
エクステンションセンター TEL. 052-835-7216

【日時】2015年12月1日 14時30分-16時30分

【場所】名古屋マリオットアソシアホテル16階 タワーズボールルーム

コーディネーター



奥野 信宏氏  
梅村学園理事  
評議員・学術顧問

パネリスト



波多野 淳彦氏  
経済産業省  
中部経済産業局長



小笠原 剛氏  
株式会社  
三菱東京UFJ銀行  
副頭取



種村 均氏  
中部経済同友会代表幹事  
株式会社  
リタケカンパニーリミテド  
代表取締役会長



内田 俊宏氏  
梅村学園評議員  
中京大学経済学部  
客員教授

受講無料

---

185号のトピックス

---



全国同窓会(p.10)



大学祭(p.13)



硬式野球部 秋季リーグ優勝(p.14)



しなやかに挑み続ける新生・中京大学

 CHUKYO UNIVERSITY

〈発行〉 中京大学 広報部

〒466-8666名古屋市昭和区八事本町101-2 TEL.052-835-7111代